

都道府県名：熊本県	市町村名：産山村
1. 活動名 「学びの森」を活用した「椎茸駒打ち体験」「炭焼き体験」「果樹植栽」「フィールドアスレチック」施設での環境教育	
<p>2. 取組の背景、目的</p> <p>○ 平成18年度に廃校となった旧山鹿小学校跡地は、これまでの永い歴史の中で、遊びの広場や学校の森という優れた教育環境が育まれてきた。子どもたちの声が聞こえなくなったこの場を、子供たちが遊び野鳥の声が飛び交う場に再び戻したいと、保護者等の協力を得て平成20年度に「学びの森」を立ち上げた。この森で子どもたちに様々な体験活動をさせたり、様々な果樹を植栽したり、野外での活動を通しながら、心豊かな子どもたちを育むとともに、産山村の誇りでもある森林や草原に関する講話も小学生高学年、中学生を対象に行い、森林の大切さや草原を守ることの意義などを考えさせ、将来自分で行動できるような、「生きる力」を持った子どもの育成をめざしていく</p>	
3. 実施主体 産山村立産山小学校・産山中学校	
<p>4. 取組の概要</p> <p>3年目となった今年は、「椎茸駒打ち体験」・「炭焼き体験」・「果樹植栽」・「自然体験交流会」や「石釜作り」を行った。椎茸駒打ち体験では、学校支援地域本部の協力を得て3年生が、椎茸の種類・原木・ほだ木・種駒・収穫時期等の講話や実際に駒打ち体験を行った。炭焼きでは、一昨年に作った窯で地域支援員の指導のもと、5年生が体験した。学校林で育ったクヌギを活用しての木炭づくりである。ここではクヌギの特性や生かし方等が学習された。果樹植栽では、4・5・6年生が栗、柿等を植栽し、野鳥や小動物が集まる環境づくりをめざしている。これまで2年間実の生る木を植えて来ており、集まる野鳥観察は最も楽しみとする時間である。更に今年は、東屋の中に「石釜」を設置した。今後も保護者、地域ボランティアの方々の指導により様々な施設を充実して行き、授業や土曜日を教育の場として有効に活用して行く。</p>	
5. 支援事業（国、都道府県、各種団体等から支援、補助を受けている事業名、及び補助率を記入して下さい。）「学びの森推進事業」補助率一律30万3千円	
<p>6. 取組等についての成果や課題</p> <p>保護者や地域ボランティアの支援、協力により子どもたちは様々な活動を、「学びの森」で体験することが出来た。またふれあいを通して、地域住民の心の温かさ、そして木のぬくもりを改めて感じる事ができた。村木である「クヌギ」で「椎茸駒打ち」体験そして「炭焼き」等のいこしえ人の生活の体験活動を通して、クヌギの特性とそれを生かす方法を、また草原を守り水を守る事の大切さ等を学び、地域の誇りとふるさとを大切に育っている。</p>	

写真添付欄



写真の説明欄

本県森林インストラクター会の方々を講師に招き、森の野鳥や草花について指導を受け、観察会を実施。また、ネイチャーゲーム等も実施し、森の働きについて学ぶことができた。双眼鏡を使って学びの森にやってくる野鳥の観察も行った。



3年生16名が参加。椎茸種駒取扱業者の方から椎茸の栽培についての講話。椎茸の原木は産山区の椎茸栽培農家の協力で切り出し。駒打ち後、防霜ネットをかけて鳥居型に設置し来年伏せ込みをする。



5年生13名が参加。地域の指導者をお招きし、学びの森から切り出したクヌギ等の原木を一定の長さに切り炭焼き釜に搬入。2週間後、焼き上がった炭の取り出し。4年生の「うぶやま学」での水質保全活動等にも活用して行く。



今年は、県装飾古墳館の職員を招いてドングリを使った「古代焼き体験」クッキー作りに挑戦する予定だったが、大雪の為急遽中止した。そこで、いつでも森の中で挑戦できるようにと石釜を購入設置した。ドングリや栗、から芋を使ったピザやクッキー作りに今後挑戦させたい。